

平成 25 年 12 月 20 日
ソニー生命保険株式会社

公式 HP のシニア向けコンテンツ「50 歳からのリタ活！」内に新たに「リタ活マネー診断」を公開

～ リタイア後に楽しく充実した日々を過ごすために、リタイア後の資金について考えてみましょう！ ～

ソニー生命保険株式会社(社長 井原 勝美)は、当社ホームページのシニア向けコンテンツ「50 歳からのリタ活！」に、新たなコンテンツとして「リタ活マネー診断」を公開しましたのでお知らせいたします。

【概要】

当社では、「リタイアしてからの人生を充実させる活動」を「リタ活」と名付け、「シニアライフプランニング」を提案しています。「シニアライフプランニング」をわかりやすく体験し、理解していただくためにシニア向けコンテンツ「50 歳からのリタ活！」を平成 24 年 4 月から公式ホームページ内で公開し、ご好評をいただいております。

今回、リタイア後に楽しく充実した日々を過ごすために、リタイア後の資金について考えるコンテンツとして「リタ活マネー診断」を追加し、本日公開いたしました。

「リタ活マネー診断」

URL : <http://www.sonylife.co.jp/ritakatsu/money/>

リタ活とは…ソニー生命では、「就活」、「婚活」の次に来るものは「リタイアしてからの人生を充実させるための活動」であると考え、それを「リタ活」とネーミングいたしました。ソニー生命は「長生きをすることが幸せだ、と心から言える世の中になりたい」という思いの実現に向け、「リタ活」を応援してまいります。

【制作の背景】

定年退職や子どもの独立などを経て、充実したシニアライフを過ごすためには経済的な準備が必要ですが、現状を把握するために、ソニー生命では 50 歳～79 歳の男女 1,000 名を対象に「シニアの生活意識」をテーマにアンケートを実施し、シニアライフを過ごすための準備がどの程度整っているか調査しました。

その結果、経済的な準備としての(年金・預金・資産・生活費などの計画)で「準備は整っている」と回答した割合が 38.3%となり、半数以上の方は「準備は整っていない」と感じていることがわかりました。

このような現状から、ソニー生命ではリタイア後に楽しく充実した日々を過ごすために、リタイア後の経済的な準備について考えるきっかけを提供できるコンテンツ「リタ活マネー診断」を制作し、公式ホームページ内で公開いたしました。

調査結果の詳細は当社ホームページをご覧ください。

「シニアの生活意識調査」

URL : http://www.sonylife.co.jp/company/news/25/nr_130925.html

「50 歳からのリタ活！」は、今回新たに「リタ活マネー診断」を追加したことで、より充実したコンテンツとなりました。楽しみながら、シニアライフを考えるきっかけとしていただければと考えています。この機会にぜひお試しください。

以上

【リタ活マネー診断 トップ画面イメージ】

URL : <http://www.sonylife.co.jp/ritakatsu/money/>

資金の収支を確認する

将来受け取る年金の見込額やリタイア後の支出を入力して、リタイア後の資金の収支を確認してみましょう。

マネー診断結果を確認する

診断結果をみながらリタイア後の資金の収支やこれからの貯蓄計画を見直してみましょう。

あなたの診断結果	
現在の年齢	50歳
リタイア後に暮らす年数	20年(～65歳)
現在の貯蓄	200万円
年時収入	300万円
65歳時点の年間支出	420万円
年間収支	-120万円
リタイア後の収入累計	5250万円
支出累計	7500万円
収支	-2250万円
毎年積立額	50万円
積立期間	15年
運用利回り	0.30%
これからの貯蓄額	768万円
まとまって入ってくるお金	500万円

トータルでの過不足: -773万円

資金準備計画を立てる

リタイア後に充実した生活を送るための資金の準備計画を考えてみましょう。

必要な貯蓄額	現在の貯蓄額	不足額
2250万円	200万円	2050万円

項目	設定値	範囲
毎年積立額	50万円/年	0万円 - 500万円
積立期間	15年	1年 - 15年
運用利回り(実効)	0.3%	0% - 5%
まとまって入ってくるお金	500万円	(退職金、相続など)

4つの対策で考える

リタイア後に充実した生活を送るために、今からできるお金の4つの対策を検討してみましょう。

対策4 保険などで備える

「突然訪れるリスクにどう備えるか」も、リタ活!の大事なポイントです。

50代から病気のリスクは高くなります。また、親の介護をはじめるとこの頃から、同時に自分自身の介護や長生きへの備えにも目を向けなくてはなりません。

備える方法として、預貯金、生命保険などが考えられますが、年金暮らしでの不安の一つが「お金がなくなる」ことです。いざというときに、経済的な理由で、思うような治療や介護が受けられない状況は避けたいものです。

医療保険、介護保険、個人年金保険など、目的ごとに備え方も違ってきますので、自分に必要な保障をこの機会に考えてみてはいかがでしょうか。

対策例

- 病気・けがのときの治療費のために医療保険に加入する
- 要介護状態になった時の介護費用のために民間の介護保険に加入する
- 終身にわたり年金が支払われる個人年金保険に加入する